

丸田ストアーは、寄り合うお店の魅力もさることながら、その昔ながらの佇まいが、大きな魅力でもある。丸田ストアーを管理する不動産屋さんとお話をしたところ、木造の店構えに、木製のロゴが掲げられた現在も残る佇まいは、1966年の竣工当時から変わっていないそうだ。その当時の様子を知る、かつて丸田ストアーで鮮魚店を営んでいた高齊さんによると、当時、周辺には同じような木造の住宅や、平家の社宅が並んでいて、南側には目と鼻の先に浅間山（せんげんやま）が見えていたという。それから約60年を経て、町の風景は大きく変わり、丸田ストアーだけがポツリと取り残された。もう2階からも浅間山は見えない。その頃、裏の空き地に「ある日ニョキッと芽を出した」という小さなムクノキは、今では立派な大木になって、丸田ストアーを包み込むように立っている。

かつて小金井市内には、同じ前原町にあった「名園ストアー」をはじめ、同じような寄合のストアーがいくつも存在していたが、時代の移り変わりの中でその数は減り、現在では丸田ストアーが残るのみとなった。70年代に、市内を東西に30m道路（東八道路）が縦断し、それによって東八道路と小金井街道に囲まれ、駅からも遠いエリアに、昔からのストアーを囲む小さな住宅街が生まれた。いろいろな経緯が、このストアーを現在に残してきたのかもしれない。いずれにしても、今では都内でも珍しい木造商店建築である丸田ストアーは、「たてもの」として見ても、なかなか味わい深い。その外観や間取りを改めて観察してみると、魅力や不思議がいっぱいで、とても面白いので、このコラムで紹介していきたいと思っている。

今回は、丸田ストアーに残された、建物の「改修」と「改造」の痕跡に注目してみたい。それを取り上げることは、ストアーの歴史に思いを寄せることにもなるし、かつて作家の赤瀬川原平らが「超芸術」と呼んだような、無用でありながら美しく保存され続けている不動産として、新たな視点でたてものを楽しむことにも繋がると思う。

WATANABE
from ムネムネ



まず、2階のとをがへ上がる階段を登りはじめて、すぐ上を見上げてみよう。まるで役に立たないうえに、あまりにも小さすぎる「軒」があるのを発見することができる。私はこれを親しみをもって密かに「トロル」と呼んで、いつも大切に掃除しているのだけれど、まったく役に立っていないし、おそらく誰にも気づかれてすらいらないのではないかと思う。



同じように庇（ひさし）が、階段上の「とをが」出入り口の頭上と、1階のトイレの上にも存在していて、トイレの上の庇に限っては、丁寧に雨樋金具まで残されている。昨年、トイレを改修してからは下からは見えなくなってしまったので、ぜひ階段に登って見ていただきたい。おそらく、どこかの時期までは、ストアーの西側を覆っている波板の壁面と屋根はなく、お肉屋さんの屋根が雨ざらしになっていた時期があり、これらがその痕跡であると想像することができる。しかし、トイレや階段上は理解できても、やはり「トロル」に限っては、その存在意義が説明できないままなのだが、何か思い当たる理由がある方がいらっしゃったらぜひ教えていただきたい。こんな小さな軒では雨宿りもままならないと思うのだが。（ちなみに「トロル」の由来は、その小さくも突き出した軒の姿が、ノルウェーの奇岩トロルトウンガみたいだから。）

続いて、1階の一番奥「パリタリー」さんの店舗の一角に存在する「無用戸」を紹介する。これもなかなか味わい深い。まさに無用途なその戸は、今は空き店舗となっている元お惣菜屋さんの場所が、かつてお肉屋さんだった頃に使われていた出入口だと推定できる。というのも、元お惣菜屋さんにこの無用戸について以前にお尋ねしたところ、ご存知なかったからだ。お惣菜屋さんへ通じるであろうその戸の裏側は、今は大きな冷蔵庫で覆い隠され、その姿は見ることができない。（いつか裏側も見たい。）

しかし、確かにその戸は、ノブは付いてはいないものの、左ヒンジの蝶番が残されたまま、どこよりも丁寧に塗装を施されて、今日も誰にも必要とされず、気付かれもせず、それでも大切に保存されている。こういう無用になった戸の痕跡は、かつて町の中に残されていて、壁からドアノブだけが生えているなんて光景も珍しくはなかったのだが、木造から鉄筋コンクリートやガラス張りの建物に変わり、隅々まで機能的で無駄のない街並みに変わっていく中で、すっかり姿を消していったように思うが、丸田ストアーには、まだまだ残っている。



このストアーにはその他にも、「水路跡」や「凸凹天井」、「突き出し看板の足跡」、「壁の妖精」などなど、紹介したい無用でありながら大切に保存されている痕跡は数多い。引き続き、このコラムで紹介していけたらと考えているが、ぜひ、みなさんも丸田ストアーを訪れた際には、たてものの観察や鑑賞も楽しんでいただけたら、きっと面白い。

（文・丸田ストアー2階とをが渡邊）